

山口県立西京高等学校スポーツ事故講習会 ～部活動マネージャー対象～

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、学校における事故防止の取組に活用できる教材や資料を、学校安全Web等で提供しています。

今回、山口県の山口県立西京（さいきょう）高等学校（以下「西京高等学校」という。）からの依頼で、スポーツ事故防止・事故対応ハンドブック、「熱中症を予防しようー知って防ごう熱中症ー」パンフレット等のスポーツ事故防止資料を提供しました。養護教諭の徳永先生が講師となり、これらの資料を活用して、運動部活動のマネージャーを対象としたスポーツ事故講習会が行われ、その様子取材させていただきましたので、ご紹介します。



講習会の様子1

【山口県立西京高等学校】

西京高等学校は、昭和61年に山口県唯一の体育コースを有する学校として開校し、創立37年目を迎えました。校訓「進取 ～創 信 健 和～」の精神の下、知・徳・体の調和のとれた有為な人材の育成を教育方針としています。現在、「普通科」「普通科（体育コース）」「総合ビジネス科」「情報処理科」の4つの学科・コースを設置しており、今年度は全18クラス、710名の生徒が在席しています。

部活動は、現在15の運動部と10の文化部それぞれが、大変盛んに活動しており、運動部所属生徒のために男子寮と女子寮があります。

また、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック大会では、卒業生3名が出場を果たすなど、山口県のスポーツ界をリードする学校として定着してきています。

生徒は「チーム西京」の精神の下、それぞれの夢の実現へ向け、日々努力を続けています。（山口県立西京高等学校ホームページより）



学校風景

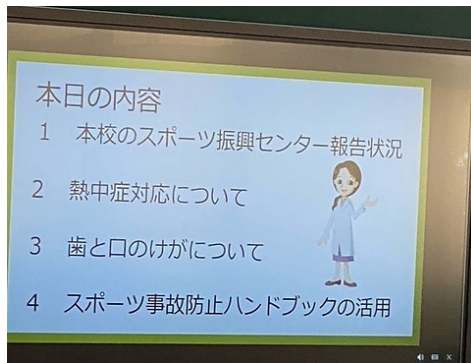


「チーム西京」ロゴマーク

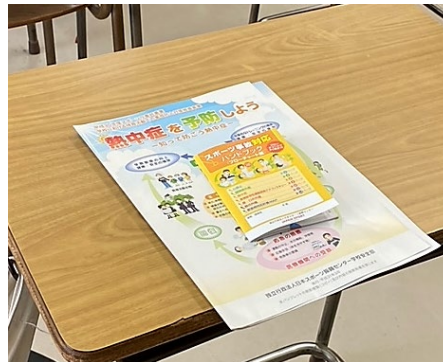
「チーム西京」とは西京高校の生徒・教職員・保護者の中で、自分の夢の実現に向けて互いに切磋琢磨しようという意味で「チーム西京」という言葉が定着しています。生徒は「チーム西京」の精神で、自律心に基づいたはじめある生活をするとともに、夢の実現に向けて、勉強や部活動に取り組んでいます。

【スポーツ事故講習会 ～部活動マネージャー対象～】

スポーツ事故の講習は、毎年6月の職員会において、熱中症予防やアレルギー対応などをラミネートして教職員に配布し説明するという形式で行っていましたが、今年度は、運動部活動のマネージャーを対象に講習会として行われ、19名が参加しました。本格的な部活動が3年ぶりに行われ、熱中症が多く発生する前のこの時期に、マネージャーとして熱中症等のスポーツ事故について知り、予防・対応ができるようになることを目的としています。



講習会の内容のスライド画面



講習会の配布資料

講習会の内容について、項目ごとに概要を紹介します。

1. 西京高等学校のスポーツ振興センター報告状況

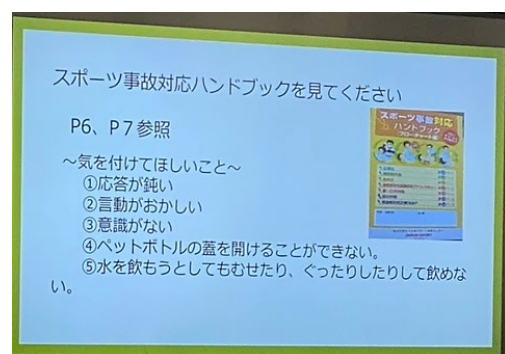
・令和3年度の西京高等学校の管理下の事故発生について、場合別、部活動別の請求件数のグラフを使って、どのような場合、どの部活動に事故が発生しているか、その傾向について説明。場合別では部活動中に多く発生し、部活動別ではサッカー部が最も多く、次いで野球部、バスケットボール部の順であった。

2. 熱中症対策について

・山口県における令和3年度の熱中症疑い傷病者の救急搬送件数等、熱中症の傾向についてクイズを交えながら説明後、JSCの映像資料「熱中症を予防しようー知って防ごう熱中症ー」を視聴。スポーツ事故対応ハンドブックで事故発生時の対応の留意点について確認した。



講習会の様子2：映像資料を視聴



スライド画面：熱中症対応の際の留意点

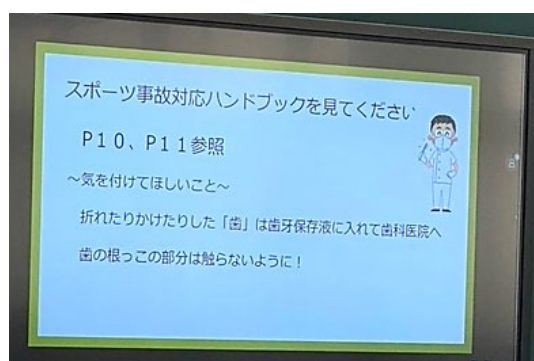
3. 歯と口のけがについて

・歯が抜けたり折れたりした場合は、あきらめず探して保存液に入れ、歯科医を受診することで再植できる可能性があることを説明。その際、歯の根元部分は触らないこと、ま

た保存液は、校内3カ所に設置されているAEDと一緒に設置していることを周知。



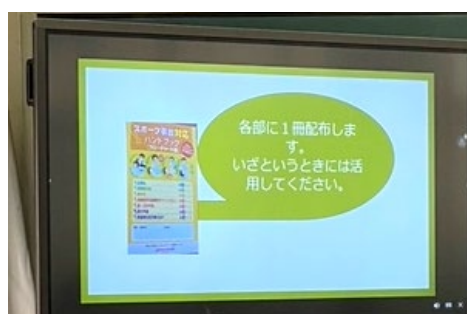
講習会の様子3：歯の保存液について説明



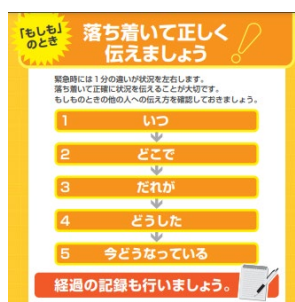
スライド画面：歯・口の外傷への対応の留意点

4. スポーツ事故防止ハンドブックの活用

・昨年度までは事故対応のフローチャートを印刷し、ラミネートしたものを各部に配布していたが、今年度はスポーツ事故防止ハンドブックを部活顧問に、対応ハンドブックや熱中症パンフレットはマネージャーに渡した。事故が起きた時に慌てることの無いよう、対応ハンドブックの裏表紙の「落ち着いて正しく伝えましょう！」の活用について伝えた。



スライド画面：対応ハンドブックの活用



対応ハンドブック裏表紙

以上の説明と併せて、対応ハンドブックの中の「心停止」「頭頸部外傷」「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」についての対応の留意点も説明されました。

講習は、校内で実際に起こった事例や部活動において実行されている対応策等の話を交えながらお話をされました。最後に、「本日、みなさんが聞いた内容を持ち帰り、部活顧問に伝えてください。チーム西京として頑張りましょう！」と締めくくられました。

【講習会受講後の感想】

受講した生徒に感想をお聞きしました。

- ・部活動中に、頭痛を訴える人が多い。今回の講習会で、頭痛の場合も日陰での休養やこまめな水分補給が大切だと分かった。今年は例年以上に暑い日が続いており、熱中症がとても心配だったので、冊子を確認しながら対応したい。
- ・部内にエピペン®を所持している人がいるので、何か起こったときの対処について確認したかったが、冊子の中に対応が記載されていたので、よく確認をしておきたい。



講習会の様子4：対応ハンドブックの活用

- ・暑さに慣れていない人も多いと思うので、こまめな水分補給について声をかけていきたい。

【養護教諭の感想】

講習会后、養護教諭から見た生徒の反応や気づきなどを徳永先生にお聞きしました。

- ・部のマネージャーを集めての講習会を初めて実施したが、学校規模が大きいので、来室者への対応が中心になりがちだが、こうして集団を対象に研修を行うことにより、「心配なことがあれば保健室へ相談しよう」と思ってくれたり、マネージャーとしての日ごろの対応について、今一度見直してくれたりするきっかけになったのではないかと感じている。今後は、JSCの給付状況等のデータをもとに、本校の実態を捉えた指導を行っていきたいと考えている。

【取材を終えて】

「(事故防止や事故対応は) 他人事ではなく自分事として捉える。」講習会の中で徳永先生が仰っていた言葉が、終了直後、先生のもとに駆け寄り熱心に質問をする生徒や、部室に向かいながらハンドブックを開いて見ている生徒の姿と重なりました。説明の中に西京高等学校で実際に起きた事例を交えることにより、生徒の事故防止に対する意識が、「自分事」としてより強く残り、またそれぞれの部に持ち帰った情報を生徒から顧問の先生に伝えることで、先生・生徒お互いが、スポーツ事故防止・対応について再確認できたのではないのでしょうか。



保健室前の掲示板

保健室の前の掲示板には、「学校安全教材カード」が掲示されており、日ごろから学校生活の中でも事故防止の資料を活用していただいていることが伺えました。

今後も西京高等学校と連携を図りながら、講習会後の変化や事故防止の取組など、共有していきたいと思います。

【参考】

- ・ [スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）](#)
- ・ [スポーツ事故対応ハンドブック（フローチャート編）](#)
- ・ [熱中症を予防しよう～知って防ごう熱中症～](#)
- ・ [映像資料：熱中症を予防しよう～知って防ごう熱中症～](#)
- ・ [学校安全教材カード](#)